

# 50周年記念総会開催し、「高校生が造った最後の酒」を味わおう……吉川高校同窓会東京支部

吉川高校同窓会東京支部の総会が10日、東京は四ツ谷で開かれました。今回は50周年記念ということもあって、参加者は140人にもなりました。参加者の中には、「高校がなくなるというじゃない。ひよっとすれば、最後になるかもしれないと思って」（千葉市Hさん）参加した人が何人もいました。みんな母校のことが気になるんですね。

吉川高校は来年3月には閉校します。会長の竹内昌昭さんは式辞で、新卒の会員が入ることはなくなるが、同じ学び舎で学んだ縁を大切に、手を取り合って生きていこう、いまの会を大切に続けていこう、と呼びかけました。田中辰也同校同窓会長は、「ここに集まった人たちは剣神社の坂を登って勉強してきた共通の経験を経験を

持っているから、会うとすぐに10年来、20年来の付き合いをしている友達と同じ雰囲気になれる。母校の歴史を大切にしたい」とのべました。吉川区総合事務所の佐々木博一所長は、「ここ数年の吉川区の動きを参加者に紹介し、注目されました。」

懇親会では、私もひとことのべさせてもらいました。吉川高校の北側はつい先だってまでニセアカシヤの白い花がたくさん咲いていて、ミツバチが飛び交っていた。私の家は高校から直線距離で500メートルもないが、最近さみしいのは野球部の人たちの声がなくなったことだ。原之町でも高校生の姿はすいぶん少なくなりました。でも新潟へ行っても、長岡へ行っても、あるいは東京へ来ても必ず吉川高校の卒業生がいて頑張っているの、うれしくなる。高校は来年3月なくなるが頑張つてほしい。そんなことを訴えました。

各テーブルには、最後の「若泉」（吉川高校生たちが造った酒）が出されました。ラベルには「崇高の物語最終章 吉川乃若泉 最終限定醸造」とありま

す。参加者にとつては全国で唯一の「高校生が酒を造る学校」が誇りなんですね。みんながこの酒について語り、母校のことを語り合いました。このお



## 「クマは、もさもさと畦道を歩いていた」

ビックリでしたね。こんな平場までクマが出るとは。6月8日、9日と吉川区内でクマが目撃されました。いずれも人的被害、物的被害はありません。

8日の吉井での発見者は関澤孝さんと尾方博さん。民家のすぐそばだったのでまさかと思ったそうです。9日の長坂でのクマは、高橋勝さんと吉田修さんが発見者でした。



クマが歩いていた吉井地内の田んぼの畦。写真の右から左へと「モサモサと移動していた」といいます。写真は11日、撮影。

酒は、11月10日（土）に行われる吉川高校閉校式典でも出されるそうです。

## 社会福祉協議会が子ども遊具で助成

上越市社会福祉協議会では、子どもの健全育成のねらいから、町内会に対して、戸外の子ども広場での遊具設置については6万6000円（修理は5万円）、室内遊具については2万円の助成をしています。ただし、予算には限りがあります。詳しいことは上越市社会福祉協議会吉川支所（電話548-3454）にお問い合わせください。

## 吉川区内の市指定文化財一覧表掲載

裏面に吉川区内の市指定文化財一覧表を掲載しました。名前など変わったものもあります。

# 春よ来い 第七九回 心づいて

孫が嫁さんをもらうなんて最高に幸せだ。いったい誰に感謝すればいいのか。結婚披露宴の会場で、「ばあちゃん、いかったね」と声をかけられるたびに、タマさんは目を潤ませ、何回も何回も手を合わせました。

タマさんは三年前、長年連れ添ってきた夫を肺気腫で亡くしました。それまで数年間、夫や長男夫婦とともに山間地で田んぼを耕し、家を守ってきました。年をとって田んぼ仕事ができなくなってきたから、外仕事をするのがめつきり少なくなりました。でも、夫がいなくなってきたから、外仕事をするのがめつきり少なくなりました。

そういふなかで楽しみは、二人の孫たちが訪ねてきてくれることです。ひとりは三和区に嫁いでいて、時々、ひ孫を連れてやってきます。そのひ孫は、小さな頃の長男と瓜二つ。かわいくてたまりません。ただ気がかりは、もうひとりの孫、マサトさんでした。付き合っている女性がいることは知っていましたが、マサトさんが三〇歳を越えていることもあって、早く所帯を持つてほしいものだと願っていました。

そのマサトさんが結婚式を挙げるといふ日がようやくやってきました。六月二日です。心配した雨も上がって、尾神岳の上の方には青空も見える。柔らかな木々の葉を少し揺らせて流れて来る風はじつにさわやか、この日はまさに結婚式日和でした。足の悪いタマさんは、高田の結婚式場へ車で送ってもらいました。

結婚式が終わって披露宴のこと。タマさんは会場の隅で椅子に座って、新郎新婦の入場から、会社の社長さんの挨拶、友人の祝いの言葉など、ひとつでも見逃すまいと見ていました。式場のカメラはスクリーンに若い二人の動きを大きく映しだしてくれそうです。時々、そのスクリーンを見上げました。孫とその連れ合いの姿を見る様子はおだやかで、ゆったりしていました。そして、とてもうれしそうでした。

披露宴が終わりに近づいた頃、タマさんの表情が急に変わった場面がありました。「それでは、新郎のマサトさんからおばあちゃんへプレゼントがごさいます」という司会者の声 flowed 流れた時です。事前に話があったのでしようが、一瞬、緊張した顔になりました。

白いタキシードを着た新郎が新婦とともにタマさんのところへやってきました。新郎が手にしていたものは縦四〇センチ、横三〇センチくらいの額です。額を目にした途端、タマさんの目から涙が溢れました。額の中には、マサトさんの、片岡鶴太郎のようなクセのある字体で「おばあちゃん、心からありがとう」という文字が筆で書かれていたのです。しかも、その心という文字はどんと大きく書かれていました。

タマさんにとってマサトさんは二人目の内孫でした。小さな時からずっと面倒を見てきた孫です。思いやりがあつて真面目な人間に育ってくれさえすればいいと思つていました。こんなにもやさしい心の持ち主になってくれるとは……。

マサトさんの心を込めた書のプレゼントはタマさんから始まって、新郎新婦の両親へと続きました。そして事前通告なしで、なんと、新婦にも。額の中に入った色紙には、「絆」という一字が力強く書かれていました。「一生、あなたとともに歩きます」という決意です。会場にいた親戚や友人の人たち、みんなが拍手を送りました。もちろん、タマさんも。会場では、小田和正の歌が静かに流されていきました。ラーラ、ラーラ、言葉にできない。あなたに会えてほんとうによかった。

名称	種別	員数	所在地	所有者等	時代・備考
木造阿弥陀如来坐像	彫刻	1軀	東鳥越	大光寺	天文5年 仏師周防作
木造阿弥陀如来坐像	彫刻	1軀	石谷	石谷町内会	室町時代
銅造観音像懸仏	彫刻	1軀	顕法寺	顕法寺	南北朝時代
伝瑚海仲珊禅師袈裟 附納入袋	工芸品	1領	赤沢	雲門寺	辻が花染め
大般若経	書跡・典籍	600冊	顕法寺	顕法寺	鉄眼版 柿崎区西勝寺管理
顕法寺文書	古文書	12通	顕法寺	顕法寺	戦国時代～江戸時代
小菅家文書	古文書	3通	町田	小菅一幸	戦国時代～江戸時代初期 上杉景勝制札他
上杉景虎書状	古文書	1幅	赤沢	雲門寺	元亀元年～天正6年
長峰遺跡出土品	考古資料	一括	山直海	上越市教育委員会	縄文時代早期～古墳時代前期
八幡遺跡出土品	考古資料	一括	山直海	上越市教育委員会	平安時代 灰釉陶器・緑釉陶器
大乘寺の五輪塔	歴史資料	2基	大乘寺	大乘寺町内会	永禄11年（一石五輪塔）、元亀2年
顕法寺の板碑	歴史資料	1基	顕法寺	顕法寺	室町時代
報尽為期碑	歴史資料	1基	川谷	専徳寺	明治20年
鈴木昌司頌徳碑	歴史資料	1基	代石	代石町内会	昭和7年
鈴木昌司筆墨跡 附書簡5通	歴史資料	2幅	下町	上越市	明治20年・明治23年
鈴木昌司筆扇	歴史資料	1面	国田	横田昌治	明治23年
鈴木昌司印章	歴史資料	1顆	下町	上越市	印文「鱸昌司印」
善徳寺の仏足石	有形民俗	1基	国田	善徳寺	江戸時代後期
町田閻魔堂の十王像	有形民俗	1具	町田	町田町内会	江戸時代
転輪寺の飯縄権現像	有形民俗	1基	天林寺	転輪寺	室町時代
十三夜	無形民俗		西野島	十三夜保存会	
顕法寺城跡	史跡		顕法寺	顕法寺ほか	
河沢塚	史跡	1基	河沢	八木吉男	鎌倉時代